

## 目次 contents

- P1 ■ 令和5年度定期総会開催報告  
・会長あいさつ  
・永年表彰
- P2 ■ 共助事例発表会
- P3 ■ 市町村コミュニティ協議会の取組
- P4 ■ 会員紹介

## 令和5年度定期総会開催報告

令和5年6月7日(水)に定期総会を開催しました。永年表彰や共助事例発表会が行われたほか、事業報告や事業計画等の審議を行い原案のとおり承認されました。

### 会長（大野 元裕 埼玉県知事）あいさつ



彩の国コミュニティ協議会会長  
埼玉県知事 大野 元裕

平素より、環境美化や防災など、様々な分野での地域活動を通じて、それぞれの地域において、皆様がしっかりと支えていただいていることに心より感謝を申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症は3年余りに及び、人と人の繋がりを希薄にし、様々な地域コミュニティ活動に対し大きな影響を与えてまいりました。

しかしながら令和2年度並びに3年度におきましても、コミュニティ活動に御参加いただいた方は約10万人、そして令和4年度には46万人もの方々に御参加をいただくこととなりました。これもひとえに関係の皆様が団結をし、コロナ禍での活動の継続に向け、知恵と工夫を出して、取り組んでこられたおかげと感謝を申し上げるところでございます。改めて敬意を表します。

さて、5月8日には、皆様御存知のとおり、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが、2類相当から5類へと変更となりました。

私は今年を「ポスト・コロナ元年」として、コロナ禍を克服し、そして10年、20年先の埼玉県の発展を見据えた、持続可能な発展に向けた、新たな年の礎にしたいと考えております。

当協議会といたしましても、交流や活動の活発化などにより、コロナ禍を乗り越えて、地域コミュニティの発展を図り、人生100年時代を見据えて、意欲と能力に応じ、あらゆる方が生き生きといつでも活躍できる社会を目指すよう、お力添えを賜りたいと思います。

持続可能な社会の実現に向け、強い信念を持って埼玉県も取り組んで参る所存でございます。

結びになりますが、協議会役員の皆様、御出席の皆様のみますの御活躍、御健勝を祈念申し上げまして、私からの会長としての御挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。



▲総会当日の様子

### 永年表彰

彩の国コミュニティ協議会及び市町村コミュニティ協議会の役員として20年以上にわたり尽力された3名の方に対し、表彰を行いました。総会当日に出席された方には、会長(大野 元裕 知事)から表彰状と記念品のフォトスタンドが授与されました。

▶袴田氏と大野会長

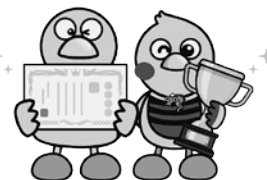


#### 【受賞者】

袴田 光春氏  
(川口市コミュニティ協議会)

佐々木 博氏  
(三郷市コミュニティ協議会)

吉田 昇氏  
(滑川町コミュニティづくり運動推進協議会)



コバトン・さいたまっちゃん



# 彩の国コミュニティ協議会 令和5年度共助事例発表会

共助の取組や手法を共有し、県内全域で「共助社会づくり」に取り組めるよう、共助事例発表会を開催しました。

## 「子育て支援はまちづくり～これからのコミュニティの育て方～」

NPO法人ふうせん 代表理事 園川 泰子 氏

安心して暮らせる社会の実現には、**地域コミュニティの活性化**が不可欠です。しかし共働きが増え、若い世代が地域と関わらなくなっている今、地域コミュニティが育たないという問題が起こっています。

地域課題を解決する鍵となるのは「女性」であると感じ、孤立しやすい母親のための場づくりを始めました。妊娠、出産、育児の時期は、通院や出産計画、手続きなど、初めてでわからないことだらけです。10人に1人が産後うつになるとされ、虐待や自殺のリスクも高いと言われています。NPO法人ふうせんでは、「子育て広場」や「ママたちのおしゃべり会」といった場づくりを行い、子育てを頑張る母親同士が集まれる場所を提供しています。



◀ NPO法人ふうせん 園川 泰子 氏



▲ママたちのおしゃべり会(NPO法人ふうせん事業)

知り合いが増えてよかったです!

という利用者の声から、地域に知り合いや隣人を作ることが、大きな支えになると感じました。

知り合いが増えれば街の居心地がよくなり、住み続けたいと思うようになります。住み続けると、子どもを育てる環境が気にかかるようになります。その思いから、地域活動に参加し始める人も出てきます。0歳児の母親をサポートすることが、若い世代を地域に根付かせる最大のチャンスです。地域や人とつなげて地域情報を共有すれば、地域に愛着を持つきっかけになり、職場復帰後も地域に関わろうとする意識が生まれます。

自分も助けられたから今度は自分が助けたい、やりたいからやる、と手を挙げてくれる人が増えていき、活動がどんどん広がっています。

子育て支援は、今困っている母親を助けるだけでなく、10年後、20年後の地域コミュニティの基盤を作る活動です。場があれば人が集まり、人が集まって活動すれば、必ず地域の活性化につながります。公民館や自治会館、会社の一角などでも構わないので、**熱意ある人に場所を提供していただけませんか。**このような地域の居場所が、県内全域に広がることを期待しています。



▲子育て広場(公民館事業)

## 「NPO法人・ボランティア団体における主体的なメンバーの育て方」

NPO法人CRファクトリー コミュニティマネジメント認定インストラクター 間藤 大輔 氏

NPO法人設立のきっかけは、自殺やうつ、児童虐待、孤独死といった社会問題の背景にある「孤独」をなんとかしたいと考えたことです。人と人のつながりを作る、愛着の持てるコミュニティを増やすといったアプローチによって、**孤独の問題を予防する社会基盤づくり**を目指しているのが、私たちCRファクトリーです。

「すべての人が居場所と仲間を持って心豊かに生きる社会」をビジョンに、「愛着を感じるあたたかいコミュニティ」を世の中に増やす活動に取り組んでいます。具体的には、NPO・市民活動・サークル活動のためのセミナーやワークショップ、コンサルティングを実施し、組織運営・マネジメント支援を行っています。

メンバー間の理念への共感の差、成果に対するこだわりの差などから生まれる温度差に悩んでいる組織は多いのではないのでしょうか。温度差が広がると、会合への集まりが悪くなったり、発言が消極的になったりと、組織の停滞につながります。これは、マネジメントによって改善できる構造上の問題であると私たちは考えました。CRファクトリーでは、**強くあたたかい組織・コミュニティ**を作るための様々な手法をお伝えしています。



▲共助事例発表会の様子

そのような組織・コミュニティに必要な存在が、主体的なメンバーです。

### 組織・コミュニティで主体的なメンバーを育てるには

#### 企画の段階から参画させること

リーダーに頼まれた仕事をこなすのではなく、ゼロから企画を立ち上げて、リーダーもメンバーも**一緒に取り組んだと実感できること**がとても大切です。時間はかかりますが、丁寧に進めていくことで、組織の主体意識を高めることができます。

#### 理念や目的といった組織の上位概念を共有すること

**何のために、誰のために活動しているのか、どこを目指しているのか。**対話を通じてビジョンを語り、メンバーに浸透させることは、リーダーの重要な仕事です。

強くあたたかい組織・コミュニティには3つの共通点があります。**理念共感、自己有用感、居心地の良さ**です。持続性のある組織づくりのため、今後もマネジメント支援を展開していきます。



▲NPO法人CRファクトリー 間藤 大輔 氏



## 市町村コミュニティ協議会の取組

彩の国コミュニティ協議会では、市町村協議会が行う事業に対して助成をしています。今年度の助成事業について、一部御紹介します。



### 花植え事業・どんぐりこままわし大会(八潮市コミュニティ協議会)

八潮市コミュニティ協議会は、八潮市の44町会・自治会から選出された委員52人で、清潔部会と活気部会に分かれ活動しています。2年ごとに活動テーマを定め、令和3年度から6年度は、「明るい地域社会の実現」を掲げ、コロナ禍でも事業を実施してまいりました。

清潔部会では、春にマリーゴールド、秋にパンジーの花の苗をやしお生涯学習館等の花壇に植え、各委員は、苗を町会・自治会に持ち帰り、花いっぱい運動を行っており、今年で44年目を迎えます。

また、活気部会では、毎年11月の第2日曜日に、地域や世代を超えたふれあいや交流の場として、大人から子どもへ伝えたい昔あそび「どんぐりこままわし」を行っており、令和5年度は26回目の開催となりました。

今後も市民の幸せを目指し、心の触れ合う豊かで住みよい地域社会を構築することを目的に活動してまいります。



▲マリーゴールドを植えた花壇



▲どんぐりこまづくりの様子



▲どんぐりこままわし大会を楽しむ子どもたち

### 青少年サマーキャンプ2023(桶川市コミュニティ協議会)

令和5年度の事業では、コロナ禍明けで4年振りに、市内の小学生30名を連れて1泊2日の青少年サマーキャンプを実施しました。

普段の学校生活や家庭生活では交わることのない学年・学校の違う小学3年生～6年生の子ども達が班ごとに分かれ、協力して火起こしをしてカレーライスを作ったり、キャンプファイヤーでは一緒にゲームをしたり、川遊びで楽しんだり、一生の思い出となるような貴重な体験をしてもらえたことと思います。

今後も、「普段は経験できない体験」をしてもらえる空間づくりに取り組んでいきます。



▲キャンプファイヤーの様子



コバトン



▲川遊びを楽しむ様子



▲火起こしに挑戦する子どもたち

### 新規会員募集中です!

お問い合わせは彩の国コミュニティ協議会事務局まで



彩の国コミュニティ協議会は、「豊かな彩の国づくり」を目指し、住民・企業・行政が一体となって、知恵と力を出し合い、住みよい地域社会づくりを進めるため、様々な取組を展開しています。こうした取組は、会員の皆さんの協力によって成り立っています。

今後、コミュニティ活動をさらに活発にするため、協力していただける新規会員を募集しています。年会費は1口5,000円で、団体会員は1口以上、企業及び行政会員は2口以上です。



## 時事通信社さいたま支局

皆さんの耳目に触れる独自媒体が少なく、知名度は「知る人ぞ知る」時事通信ですが、いくつか地域貢献や社会貢献活動をしています。今回は古くからのものと新しいものをひとつずつご紹介します。

昭和40年に創設され、文部科学省の後援を受ける「時事通信社教育奨励賞」は、創造性に富み特色ある教育の実践で成果を挙げた学校を表彰します。今年10月には第38回受賞校を決定しました。県内では県立浦和北高校に努力賞をお贈りしています。

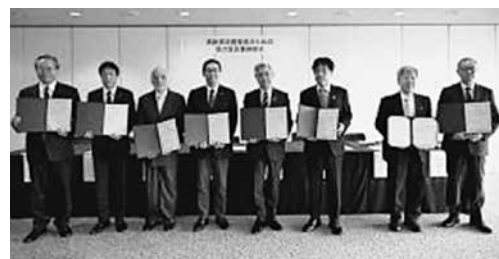
また、7月の締結式で他の加盟団体とともにアピールした「高齢者活躍推進のための協力宣言」では、新技術で耳の聞こえにくい高齢者や難聴者の社会的孤立を防ぎ、地域社会で“高齢者が活躍できる環境整備推進”に寄与する取り組みを報道陣に紹介しました。

時事通信は今後もさまざまな活動を通じて地域や社会に貢献していきます。

高齢者活躍推進のための協力宣言締結式▶



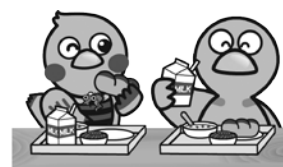
▲第37回時事通信社教育奨励賞表彰式



## (社福)埼玉県社会福祉協議会

(社福)埼玉県社会福祉協議会本会は1951年に設立され、「誰もが暮らしやすい社会の実現」に向けて、70年以上活動しています。主な事業として、ボランティア活動の支援や福祉の相談窓口、福祉に関する研修などを行政や県内の福祉団体等と協力して行っています。

近年では、「こども食堂・未来応援基金」を立ち上げ、いただいた寄付金をもとに、子どもの居場所づくりに取り組む団体等に助成を行っています。



コバトン・さいたまつち



▲こども食堂でおいなりさんを作る子どもたち



▲衣類バンクの衣類を受け取る子どもたち

また、県内の社会福祉法人と協働し、新品又は未使用品の子ども服の寄付を集め、必要とする子どもたちへ無償で届ける「衣類バンク」にも取り組んでいます。

私たちは「つながりをチカラに」をキャッチフレーズに、今後も地域の福祉活動を推進していきます。

## (一社)埼玉県校外教育協会

埼玉県校外教育協会は、昭和35年の設立以来、県内各市町村、県内各小中学校等に御協力いただきながら、埼玉県内の児童生徒の校外における生活の充実を図り、郷土埼玉を愛する児童生徒を育成する各種事業を展開しています。

主な活動である「郷土を描く児童生徒美術展」は、児童生徒が郷土を描き、その作品による展覧会を実施することによって、郷土埼玉に対する理解と認識を深め、郷土愛の高揚を図ろうとするものであり、「埼玉県芸術文化祭地域文化事業」及び「県民の日」記念事業の一環として行われています。

昨年度の第57回「郷土を描く児童生徒美術展」は埼玉県立近代美術館で開催され、48万点以上の応募作品から選ばれた知事賞120点の展示を行いました。

広々とした展示スペースで、ゆったりと落ち着いた雰囲気の中鑑賞を楽しんでいただきました。



▲郷土を描く児童生徒美術展 会場の様子